

IV類（商業）系列の再構築

～系列改革に応じて～

商業科 吉備 豊・對崎加奈子・鈴木正徳

【要旨】

本校商業科は、今回の新学習指導要領の改訂に伴う学校の系列改革において、大きな科目設定の精選を行った。附属学校であることを強調した新系列のうち「人文・コミュニケーション」系列にビジネス方面への進学・就職に興味・関心を持つ生徒に対応する教科となったからだ。現行科目と新設定科目の考察・精選過程を報告する。

キーワード：新系列 地域研究 販売実践 アジアとビジネス 商業

1. はじめに

現在、IV類では「ビジネス系列」と「国際流通系列」の2系列を設置している。前者はビジネス活動全般を浅く広く学ぶもので、後者はビジネス系の学部への大学進学を目標とし、早い段階からの資格取得や専門性を高めたスペシャリストの養成を行っている。

今回の新学習指導要領の改訂に伴う本校の系列改革においてIV類は従来の系列名からはずれ、新系列の「人文・コミュニケーション系列」に所属することとなった。また、専門教科については講師数の制限もあり、従来の68単位から34単位まで科目数を精選することとなり、IV類のあり方の再考をも迫られることになった。

そこで、新系列におけるIV類科目の設定と本校における今後のIV類のあり方について報告する。

2. 再構築の背景

本校は平成6年度に「職業教育を主眼に置いた総合学科」に全国に先駆けて改編した。その際、総合選択科目群の系列は、40数年の職業系高等学校としての伝統と実績のある学科体制（農業・工業・家庭）を発展させた形で用意された。商業が加わったのである。

職業教育に主眼をおいた「農業・工業・家庭・商業」の4類型にそれぞれ2系列をつくり、8系列（「生物資源系列」「エコロジー系列」「機械技術系列」「メカトロニクス系列」「食物栄養系列」「アパレル系列」「国際流通系列」「ビジネス系列」）を開設した。それは、生徒の多様な知的好奇心に十分応えることができた。

しかし、生徒の進路希望が上級学校への進学志向に転換しつつあり、また、全国にも多くの総合学科が誕生したことにより当初の先駆的な役割は終わりつつあった。

それは入試における応募者の減少が、如実にデータとして証明していた。そこで、平成15年より従来の教科領域での構成ではなく、生徒一人一人の将来の目的に向けて、明確な目標を持たせることができる総合学科本来の総合的な系列に改編することとなった。

3. 新系列への改編の目的

生徒募集にあたり作成した学校案内のキーワードは「大学で何を学ぶかを学ぶ進学校」である。近年生徒の興味関心はさらに多様化の傾向があり、高校卒業＝就職よりもさらに上級学校へ進み、スペシャリストを目指す流れがある。また、少子化の影響もあり、新たな入試制度である「ACまたはAO入試」も始まり、ますます大学へ進学しやすい環境が整いつつある。

現在中学生の高校進学率は97%をこえている。この結果は逆に不登校、中退者数の増加を生み、大きな社会問題となっている。これは明確な目標を持たずに進学したのが大きな要因である。同じように今その現象が大学で起こり始めているという。現在の高校生は大学進学希望者は高校生全体の48%前後を推移しているが、その大半が数年後には全入になれるとも言われている。もしかすると本意でなく進学してしまう生徒が今後増加していくことが予想され、将来の希望や適職を見つけられぬままフリーターとして社会に出てしまうことが危惧される。そこで高校入学後の早い段階で自分の興味関心を見つけ、自分の人生の目標のために進むべき方向性を決め、大学進学への準備と、大学進学後の基礎学力を養成しやすい環境が整った系列に改編することとなった。

4類型8系列であった構成は、「生物資源・環境科学系列」「工学システム・情報科学系列」「生活・人間科

学系列「人文社会・コミュニケーション系列」の4系列(表1)に改編される。新たに専門教科「情報」と「福祉」を取り入れ、より多様な生徒の知的好奇心に応えることにする。また「人文社会・コミュニケーション系列」を新たに設けたことで、専門教育と普通教育のバランスをとることも実現することが可能になる。

また全国に先駆けて導入した2期制(前・後期制)は、本校の進学指導で大きな問題を抱えていたので、3学期制に戻すこととした。ただし、親大学の筑波大学にあわせ2学期が11月で終了し、12月より3学期が始まる

変則3学期制である。これによって各学期の授業時間数のバランスを保つことができる。

2期制のデメリットは、進路を決定する7月に、成績がでないことと、進学指導で一番重要な9月から10月にかけてが前後期の切れ目となり、期末考査や秋休みのために十分な指導ができない状況があるからだ。まして新しい大学入試の制度として増加しているAO(AC)入試が年々早まる傾向にあり、それに対応することが困難になってきたからである。

(表1)	【従来の系列名】	【新系列名】
農業	生物資源系列 エコロジー系列	生物資源・環境科学系列 [キーワード：農業・環境・食料・生物・地球・都市・農村]
工業	機械技術系列 メカトロニクス系列	工学システム・情報科学系列 [キーワード：科学技術・ものづくり・マルチメディア・情報システム]
家庭	食物栄養系列 アパレル系列	生活・人間科学系列 [キーワード：福祉・ヒト・衣食住・家族]
商業	国際流通系列 ビジネス系列	人文社会・コミュニケーション系列 [キーワード：文化・経済・国際・コミュニティ・社会]

4. 新系列の内容

4-1 各系列の目標および進路目標となる学群・学部

① 生物資源・環境科学系列

人間生活を豊かにしてくれる動物・植物について理解し、これを利用する知識・技術を習得させ、また、生物が成育するために適する環境を理解し、これを適切に管理・利用する知識・技術を習得させ、そして、生物資源の開発・利用・保全のために幅広く活躍できる人材を育成する。

〔農・獣医・畜産・環境系〕

農学部・農獣医学部・畜産学部・環境学部
 理学部・生物資源学類・生物学類・自然学類
 医学類 など

② 工学システム・情報科学系列

人間の知的な生産活動である「ものづくり」の体験を通して、科学技術をこよなく愛する態度と能力を習得させ、そして、工学システム・情報科学を総合的かつ科学的に探究する活動を通じて、よりよい「科学技術創造社会」を作り支える人材を育成する。

〔理工系〕

工学部・理工学部・理学部・情報科学部・
 システム工学部・工学システム学類、工学基礎学類
 情報学類、図書館情報学類、社会工学類、自然学類
 など

③ 生活・人間科学系列

人間生活の基盤となる衣食住及び福祉・介護などに

関する基礎的・基本的な知識・技術を習得させ、現代社会の課題を科学的に理解し、よりよい社会の創造に主体的に取り組む人材を育成する。

〔生活・福祉系〕

生活環境学部・看護学部・社会福祉学部
生活科学部・教育学部・幼児教育学部
服飾デザイン学部・人間学類、医療看護学類
体育専門学類、芸術専門学類など

④ 人文社会・コミュニケーション系列

広く人類の文化や社会の在り方及び人と人とのコミュニケーションに関する基礎的・基本的な知識・技術を習得させ、現代社会の課題を科学的に理解し、よりよい社会の創造に主体的に取り組む人材を育成する。

〔人文・社会科学系〕

心理学部・コミュニケーション学部・商学部
経営学部・経済学部・法学部・人文学類、社会学類
比較文化学類、日本語日本文化学類、国際総合学類
など

4-2 総合選択科目群の構成

各系列における科目構成は次の通りである。

ア) 系列必修科目…所属系列で必ず履修しなければならないもの

イ) 系列選択科目…各系列で指定された単位数をこの中から選択する

ウ) 自由選択科目…系列に縛られることなく14単位(2年次4単位、3年次10単位)が選択できる

※ 系列必修科目と系列選択科目の合計単位数は各系列で異なるが、2年次は10単位、3年次は16単位となっている。

各教科ともこの構成原案に従って、それぞれの目標とする学類、学部に必要な知識となる基礎科目を精選した。

5. IV類の再構築

5-1 再構築に当たり

平成15年度入学生からの系列改革にあたって、準備委員会から構想案が示された際、農業・工業・家庭・商業の専門教科についての選択科目は、非常勤講師授業は作らないと確認された。これによって商業科は3人の専任教員で1年次の必修科目(産業社会と人間・産業理解)にとられてしまう時間を除くと、開設可能な講座は

34単位となり、現在の16科目56単位から大きな科目の精選を迫られることになった。また教科の枠を取り払った総合的・合科的な開発科目である「学校設定科目」の開発を各系列にいくつか置くことも将来的な目標に取り組むことになった。

そこで、「アジアとビジネス」「地域研究」「企業実践」の3科目を開発することとなった。平成15年度から開講する「アジアとビジネス」「地域研究」については、具体的な研究内容を、この紀要に別々に報告する。いずれも2・3年次選択の2単位科目である。また平成17年度より開講する、新系列における商業の総合的な学習としての「ビジネス実践」を発展させた「販売実践」の指導内容についてもこの紀要で報告する。

5-2 系列基礎科目の廃止

系列基礎科目とは、総合学科の原則履修科目「産業社会と人間」の後を受け、1年次後期より系列基礎科目として履修する「ビジネス基礎」と「国際流通基礎」である。しかし、今回の系列改革では系列基礎科目が廃止さ

「現在の系列基礎科目の目標」

【ビジネス基礎】

ビジネス社会で必要とされる基礎的・基本的な知識や技術を実践的に学習する。またビジネスに必要なマナーや法律値簿記を中心とした商取引に必要な能力と態度を学ぶ。

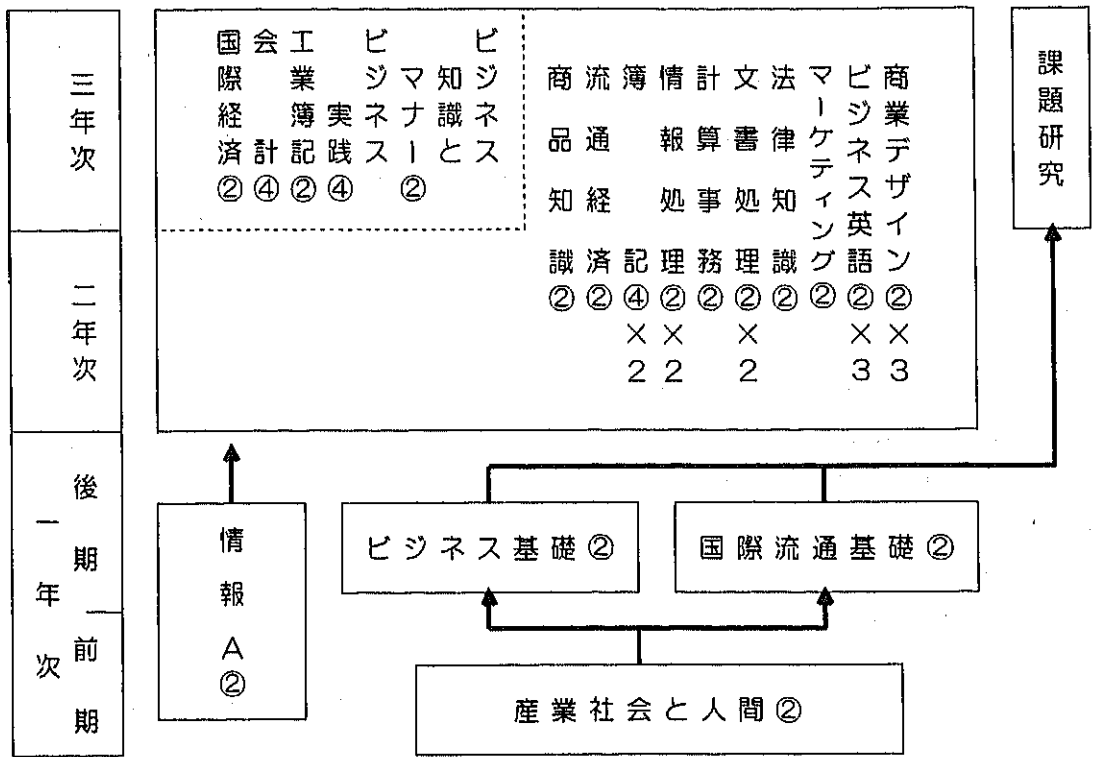
【国際流通基礎】

ビジネス活動に関わる経済や簿記などの知識を深く理解するとともに、国際社会で活躍できる人材になれるために、英語の学習にも力を入れる。また大学受験を有資格者推薦制度を利用して進学できるよう、各種資格取得をも目指す。

れ、現在前期に履修している「産業社会と人間」を3学期制への移行に従い、通年科目とすることになった。これは、多様化する生徒の興味関心を早い段階で引き出すために、本校が研究開発した「産業理解(2単位)」とともに将来の進路選択を含めた生き方を考察させるためである。

(表 2)

現在の商業科目の関係



5-3 科目の精選

商業科は現在、系列基礎科目を含めて16科目5.6単位を開設している。(表2)それを前述の通り3.4単位まで精選することになった。精選されても学習指導要領の商業の目標を満足させられる内容であることが前提で

商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、ビジネスに対する望ましい心構えや理念を身に付けさせるとともに、ビジネスの諸活動を主体的、合理的に行い、経済社会の発展に寄与する能力と態度を育てる。

- 簿記 簿記入門 会計 原価計算
- 「経営情報分野」
- ビジネス・スキル デザイン
- 「総合的科目群」
- 販売実践 ビジネス研究

新学習指導要領で21科目から17科目に削減された改訂以外で本校独自の精選を行う必要があった。現在の1/3の科目を精選するに当たっては、統合しても指導できる科目と、ビジネス系学部進学に必要な知識と技術のために、商業の柱として残す科目に分けた。本校独自の精選は以下の通りである。

あった。

各分野に該当する科目は以下の通りである。

- 「流通ビジネス分野」
- 商品と流通 デザイン ビジネス・スキル
- マーケティング・コミュニケーション 消費経済
- 「国際経済分野」
- やさしい法律 ワールドビジネス
- アジアとビジネス
- 「簿記会計分野」

- 「法律知識」→「やさしい法律」「消費経済」
- 「簿記」→「簿記」「簿記入門」
- 「文書処理」「計算事務」「情報処理」
- 「ビジネス・スキル」
- 「ビジネス知識とマナー」「ビジネス実践」
- 「販売実践」
- 「ビジネス英語」(廃止)→「アジアとビジネス」

に内容を含む

(表3) 【現在の設定科目】

【新設定科目】

ビジネス基礎②	< 1 年次生 >	} (廃止)		
国際流通基礎②	< 1 年次生 >			
流通経済②	< 2・3年次生 >	} (統合)→	商品と流通②	< 2年次生 >
商品知識②	< 2・3年次生 >			
商業デザイン②×3	< 2・3年次生 >	—(名称変更)→	デザイン②	< 2年次生 >
ビジネス英語②×3	< 2・3年次生 >	—(廃止)		
マーケティング②	< 2・3年次生 >	—(名称変更)→	マーケティング・コミュニケーション②	< 3年次生 >
法律知識②	< 2・3年次生 >	} (名称変更)→ (新設)→	やさしい法律②	< 3年次生 >
				消費経済②
簿記④×2	< 2・3年次生 >	} →	簿記④	< 2年次生 >
				簿記入門④
工業簿記②	< 3 年次生 >	—(名称変更)→	原価計算②	< 2年次生 >
文書処理②×2	< 2・3年次生 >	} (統合)→	ビジネス・スキル②	< 3年次生 >
計算事務②	< 2・3年次生 >			
情報処理②×2	< 2・3年次生 >	} (統合)→	販売実践④	< 3年次生 >
ビジネス知識とマナー②	< 2・3年次生 >			
ビジネス実践④	< 3 年次生 >			
会計④	< 3 年次生 >	→	会計④	< 3年次生 >
国際経済②	< 2・3年次生 >	—(名称変更)→	ワールドビジネス②	< 3年次生 >
		(新設)→	ビジネス研究②	< 3年次生 >

5-4 科目の構成 (表3)

①系列必修科目

- < 2年次 > 消費経済② (※生活・人間科学系列)
- < 3年次 > ワールドビジネス②

②系列選択科目

- < 2年次 > 簿記④、商品と流通②、原価計算②
- < 3年次 > 会計④、ビジネス研究②、
ITとビジネス②、マーケティング・コミュニケーション②

③自由選択科目

- < 2年次 > デザイン②
- < 3年次 > 簿記入門④、ビジネス・スキル②、
やさしい法律②、販売実践④

※選択条件

- ・ビジネス系学部への進学希望者は「商品と流通」「簿記」「原価計算」を2年次に「会計」を3年次に履修すること
- ・2年次の「簿記」「原価計算」は同時に履修する
- ・「会計」は「簿記」「原価計算」を履修しなければならない

- ・「簿記入門」「やさしい法律」「ビジネススキル」はどの系列でも選択可能
- ・「販売実践」は自由選択科目だが、「簿記」または「簿記入門」を履修していることがのぞましい

5-4 設定科目について

- ①「簿記入門」(3年次科目…4単位)
簿記の入門講座。簿記検定3級程度。パソコンでの会計ソフト利用を含む(履修条件なし)
- ②「簿記」(2年次科目…4単位)
センター試験等、大学受験に対応できるように、簿記検定2級以上をねらう(「原価計算」と一緒に履修)
- ③「会計」(3年次科目…4単位)
日商簿記検定2級、全商簿記検定1級合格を目指す「簿記」を履修していることを条件とする
- ④「原価計算」(3年次科目…2単位)
簿記検定上位級合格を目指す者。「簿記」と一緒に

履修することを条件とする

⑤「商品と流通」（2年次科目…2単位）

商業系科目の基礎科目として、ビジネス系大学進学を目指す者を対象とする

⑥「マーケティング・コミュニケーション」（3年次科目…2単位）

従来のマーケティングの名称変更

⑦「デザイン」（2年次科目…2単位）

色彩やレタリング、グラフィックなどのデザインの基礎知識を習得する。カラーコーディネータ検定受験等をめざす

⑧「ワールドビジネス」（2年次科目…2単位）

広く外国の産業経済や急速に進展する経済活動の国際化などに関する知識と理解を深め、豊かな国際性を養えるよう学習する

⑨「やさしい法律」（3年次科目…2単位）

身近な法律（民法）を中心に学習する

⑩「ビジネス・スキル」（3年次科目…2単位）

AO入試等に向けた各種資格取得を目指す

⑪「消費経済」（2年次科目…2単位）

生活・人間科学系列の必修科目である。「くらし」にかかわる消費活動全体を、商業的見地から学習する。

⑫「アジアとビジネス」（3年次科目…2単位）

別稿参照（P77～80）

⑬「販売実践」（3年次科目…4単位）

別稿参照（P87～92）

⑭「ビジネス研究」（3年次科目…2単位）

大学受験等に向けて個人の研究を教官から後押しする。AO・AC入試合格を目指す。

6. 今後の課題

現在のビジネスは、国内経済の枠にとらわれず、広く国際的に活動し始めている。経済の国際化、グローバル化が今後ますます進む中でビジネス教育が求められているのは、経済社会に適応し活躍できる社会性や想像力、企画力、コミュニケーション能力を備える「人材」の育成である。生徒が将来にわたって豊かな発想や創造力を伸ばしていくために、その基礎となる知識や技術をいかに習得させるかが重要なファクターである。ゆとりある授業の中で、基礎・基本の習得の徹底を図ったり、工夫のある授業展開を行うことで生徒の興味・関心を引き出し、「生徒自らが学ぶ姿勢」を養いたい。そのために実践的、体験的に学ばせることに重点を置いた指導内容や指導方法をさらに検討していきたいと考えている。

このような方針の基、今回の系列改革において、大胆な科目の精選を行ってきたのだが、まだまだ検討の時間が不足している。本校は「職業教育を主眼においた総合学科」であることには変わりはない。しかし、系列基礎科目がなくなったために、2年次以降のビジネス系列の学習ガイダンス的な科目がなく、商業の教育内容全般にわたっての基礎的・基本的な知識や技術を学ぶことができない。これには新学習指導要領での原則履修科目「ビジネス基礎（新設）」を早い段階で履修させることが望ましいが、教官の不足から設定することができない。事実、34単位の中に商業科として盛り込みたい指導内容が入り切れていない。

とりあえず15年度よりスタートをし、15年度入学生の科目選択の状況を見ながら、調整していかねばならないと考えている。また2・3年次選択科目が、それぞれ2年次選択科目、3年次選択科目に明確に分かれたことで、体系的に科目を配置し、指導内容が発展的、応用的になるように構築していくこともさらに検討が必要である。さらに、本校が取り組んでいる教科「産業」の開発に伴い、各教科で産業に関わる科目を模索していかねばならない。つまり科目名に「産業」を組み入れた内容ができないかを検討する必要があることだ。

系列改革は、新たな総合学科の提案のためにもまだまだ多くの検討の時間が必要であろう。教科の枠を超えた学校設定科目の開発もしかりである。国立附属高校としての使命を十分に理解し、さまざまな教科の内容と特性をうまく合体させ、社会の急激な変化に対応できる指導内容を常に検討、研究していきたいと考えている。

最後に本校教育課程委員会をはじめ、系列改革に関するさまざまな委員会等を経て形となった平成15年度入学生用の教育課程表と系列別科目一覧表を参考資料として添付する。

【参考・引用資料】

○「高等学校学習指導要領解説 商業編」

文部科学省 平成12年3月

○筑波大学附属坂戸高等学校「研究紀要」

・(1997)青木猛正：総合学科の成果と課題

・(1999)西木成男：商業教育におけるガイダンス科目の在り方に関する考察

平成15年度入学生用 系列別科目一覧(案)

2 年 次				
	生物資源・環境科学	工学システム・情報科学	生活・人間科学	人文社会・コミュニケーション
系列必修	必修(6単位) 生物資源実習(2×4) 生物II①or化学II①(2) 化学I or 生物I(2)	必修(6単位) 数学II(4) 工学情報基礎(2×4)	必修(4単位) 現代文I(2) 消費経済(2)	必修(2単位) Communicative Writing I(2)
系列選択	選択(4単位) 農から見た環境科学(2) 農業実験I(2) 農業研究I(2) 環境創造(2)	選択(4単位) 物理II or 物理I(2) 生産技術システム(2) プロダクティヴ技I(2)	選択(6単位) 家庭看護・福祉(2) 福祉入門(2) プロダクティヴ技術I(4) クッキングI(4) 栄養(2)	選択(8単位) 現代文I(2) 古典I(2) 簿記(4) 商品と流通(2) 原価計算(2) 古典基礎(2) 数学A(2)
自由選択	自由選択(4単位)			
	国語 日本語表現(2)	地歴公民 日本史B(4) 世界の思想(2)	数学 数学II(2) 数学A(2)	理科 化学I(2) 化学II(2or4)
	英語 オーラルI(2)	農業 生物活用技術(2) ※地球と環境(2)	工業 製図(2)	家庭 基礎介護(2)
			商業 商業デザイン(2)	体育・芸術 その他 スポーツII(2)
3 年 次				
	生物資源・環境科学	工学システム・情報科学	生活・人間科学	人文社会・コミュニケーション
系列必修	必修(8単位) 農耕と暮らし(2×2) 生物II②or化学II②(2) 化学II or 生物II(2) 卒業研究(2)	必修(8単位) 工学情報実習(4×4) 卒業研究(2×4) 物理II(2/4)	必修(8単位) 発達と保育(2) プロダクティヴ・クッキング(2) 現代文II(2) 卒業研究(2)	必修(8単位) Practical Reading(4) ワールド・ビジネス(2) 卒業研究(2)
系列選択	選択(8単位) 食と農の科学(4×2) 生活と環境(2) 農を読む(2) ガーデニング(2) 地球科学(2×2) 農業実験II(2) 農業研究II(2)	選択(8単位) 数学B(2)・数学C(2) 機械設計(2) プロダクティヴ技II(2) ソフトウェア技術(2) ソフトウェア技術(2) 原動機(2) モデル化とシミュレーション(2)	選択(8単位) 社会福祉援助技術(2) 社会福祉実習(2) 社会福祉演習(2) プロダクティヴ技術II(4) クッキングII(4) パフォーマンス・コミュニケーション(2) 役立つ統計(2)	選択(8単位) 現代文II(2) 古典II(2) Communicative Writing II(2) 会計(4) 商学研究(2) マーケティング・コミュニケーション(2) 現代評論(2) Internet English(2)
自由選択	自由選択(10単位)			
	国語 表現演習(2) 古典講読(2)	地歴公民 地理B(4) 世界史B(4) 政治経済(2) 日本史A(2)	数学 数学II(2) 数学III(4) 数学基礎(2) 数学演習(2)	理科 生物II(2) 化学II(2/4)
	英語 リーディング(4) オーラルI(2) ライティング(2)	農業 植物生態学(2) 動物生態学(2)	工業 電子機械(2)	家庭・福祉
			商業 簿記入門(4) ビジネス・スキル(2) やさしい法律(2) 販売実践(4)	体育・芸術・情報 音楽II(2) 美術II(2) プロダクティヴ・イア(2) 比較文化論(2)

総合科学科教育課程表 (案)

(平成15年度入学生予定表)

1 年 次				2 年 次				3 年 次						
教科	科 目	単 位		教科	科 目	単 位		教科	科 目	単 位				
必 履 修 科 目	国 語	国語総合	4	必 履 修 科 目	地 歴	世界史A	2	必 履 修 科 目	保健体育	体育	2			
	地 歴	地理A	2		公民	現代社会	2			保健	1			
	数 学	数学I	4		理 科	物理I 化学I 生物I	1科目 選択		2					
	理 科	理科総合A } 理科総合B } 選択	2						保健体育	体育	2	3年次必履修科目単位数計		3
	保健体育	体育	3		保健体育	保健	1		3年次選択科目単位数計		26			
	外国語	英語I	5		外国語	英語II	5		最大履修可能教科・科目単位数 88単位 卒業認定に必要な教科・科目の単位数 80単位					
	家庭	家庭基礎	2		産 業	起業基礎	1							
	情報	情報A	2		2年次必履修科目単位数計									14
	芸 術	音楽I 美術I 書道I } 1科目 選択	2		2年次学校指定必履修科目単位数計									1
学 校 指 定 必 履 修 科 目	産 業	産業社会と人間	2	2年次選択科目単位数計			14							
	産 業	産業理解	2											
1年次必履修科目単位数計			26											
1年次学校指定必履修科目単位数計			4											
選 択 科 目 群														
系 列 必 修 科 目				系 列 選 択 科 目				自 由 選 択 科 目						
生 物 資 源 環 境 科 学 系 列	化学I(2) 化学II(2)			農から見た環境科学(2)			日本語表現(2) 表現演習(2)							
	生物I(2) 生物II(2)			農業実験(2) 農業研究(2)			古典講読(2) 日本史B(4)							
	生物資源実習(2)			環境創造(2) 食と農の科学(4)			倫理(2) 地理B(4)							
	農耕と暮らし(2) 卒業研究(2)			生活と環境(2) 農を詠む(2)			世界史B(4) 政治経済(2)							
工 学 シ ス テ ム 情 報 系 列	数学II(4)			数学B(2) 数学C(2)			数学III(4) 数学A(2)							
	物理I(2) 物理II(4)			生産技術システム(2) 機械設計(2)			数学基礎(2) 数学演習(2)							
	工学情報基礎(2)			フロンティア技術I(2) フロンティア技術II(2)			化学I(2) 化学II①(2)							
	工学情報実習(4)			ハードウェア技術(2) ソフトウェア技術(2)			化学II②(2) 生物II(2)							
生 活 人 間 科 学 系 列	卒業研究(2)			原動機(2) モータ化とシミュレーション(2)			スポーツII(2) オールI(2)							
	現代文I(2) 現代文II(2)			クッキングI(4) クッキングII(4) 栄養(2)			リティング(4) ライトング(2)							
	発達と保育(2) 消費経済(2)			フロンティア技術I(4) フロンティア技術II(4)			音楽II(2) 美術II(2)							
	卒業研究(2)			家庭看護・福祉(2) 社会福祉実習(2)			生物活用技術(2)							
人 文 社 会 コ ム ニ ケ シ ョ ン 系 列	卒業研究(2)			社会福祉基礎・制度(2) 役立つ統計(2)			地球と環境(2) 植物生態学(2)							
	Communicative Writing I(2)			社会福祉援助技術(2) 社会福祉演習(2)			動物生態学(2)							
	Practical Reading (4)			パフォーミング・コミュニケーション(2)			製図(2) 電子機械(2)							
	ライト・ヒューズ(2)			現代文I(2) 現代文II(2)			基礎介護(2) 比較文化論(2)							
卒業研究(2)			現代評論(2) 古典I(2) 古典II(2)			商業デザイン(2) 簿記入門(4)								
			古典基礎(2) 数学A(2)			ビジネス知識(2) 正しい法律(2)								
			Communicative Writing II(2)			販売実践(4)								
			Internet English (2)											
			簿記(4) 商品と流通(2) 原価計算(2)											
			会計(4) ビジネス研究(2)											
			マーケティング・コミュニケーション(2)											
教科・科目履修単位数計			30	教科・科目履修単位数計			29	教科・科目履修単位数計			29			
特別活動			1	特別活動			1	特別活動			1			
総合的な学習の時間			1	総合的な学習の時間			1	総合的な学習の時間			1			
1年次総履修単位数			32	2年次総履修単位数			31	3年次総履修単位数			31			